

からだ

FAX 078.360.5512 seikatu@kobe-np.co.jp

■ 血行悪化が原因

痔には大きく分けて三つの種類がある。直腸肛門部の血行が悪くなり、血管の一部が膨れ上がる痔核(硬い便によって肛門上皮が裂ける「裂肛(切れ痔)」▽細菌感染が原因でうみが出る「痔瘻(穴痔)」―)で、このうち、日本人に最も多いとされるのが痔核だ。

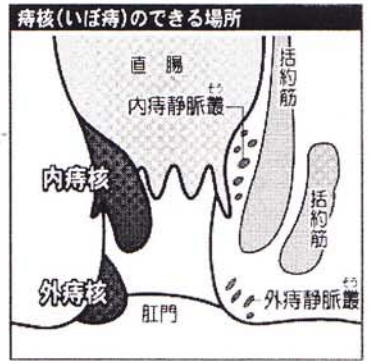
痔核となるのは肛門周辺にある、血管が集まった「静脈叢」という部位。直腸側にある内痔静脈叢は、水道の蛇口のハッキンのように、便漏れを防ぐ作用をする。

ところが肛門部の血行が悪くなると、静脈叢がうっ血・膨張して大きくなり、肛門外に飛び出してしま

注射でいぼ痔を治療

加古川市のクリニックの1年間で150例

痔核(いぼ痔)を注射で治す方法が注目を集めている。手術で切除するのに比べ、患者の身体的、経済的負担は大幅に軽減されるという。この1年間で約150例の注射療法を手がけた田淵クリニック(加古川市)院長の田淵正人医師に、痔核と注射療法についてたずねた。(満田幸弘)



保険適用「ジオン注」

この状態が内痔核で、悪化すると出血や痛みを伴い、さらに大きくなると、肛門内に押し戻せなくなる。痔核には肛門側の外痔静脈叢が患部となる「外痔核」もあるが、通常は痔核といえは内痔核を指す。

■ 4×3=12カ所

治療は外痔核なら軟膏を塗るのが一般的だが、内痔核は「塗り薬で痛みなどを抑えるか、手術で痔核を切り取るか」がなかった(田淵医師)。そこに登場した



田淵正人医師

患者負担 大幅に軽減

のが、注射薬「ジオン注」を使った注射療法だ。ジオン注は三菱ウェルファーマ(東京)などが開発された。主成分は硫酸アルミニウムカリウムとタンニン酸。痔に流れ込む血液の量を減らし、痔を硬く、小さくして粘膜に癒着・固定させる効果を持つ。

治療の対象となるのは脱肛している内痔核で、まず、肛門の周囲に局所麻酔をして肛門鏡を挿入。内痔核本体の場所と大きさを確かめ、内痔核一つにつき四カ所注射を打つ。内痔核は通常、同時に三つ発生するため、計十二回の注射を行うのが一般的だ。その後、患部をマッサージして終了。ほとんどの場合「翌日の排

便時にはもう、いぼが出なくなる」(田淵医師)という。

■ 熟練の技術が必要

「ジオン注で、患者の負担は大きく軽減された」と田淵医師は語る。

痔核の切除手術は一般に、一週間から十日程度の入院を要する。一方、注射療法の所要時間は二十三分で、保険も適用される。

術前に座薬を入れる必要があるが、食事制限などはない。ただしジオン注はアルミニウム成分を含むため、透析患者や妊婦、授乳中の女性には適さない。また痔核以外の部分に薬品の成分が入ると、組織が壊死して便が出にくくなるおそれがあり、注射は痔

核本体だけに打つ必要がある。

高度な技術を要するため、専門医をつくる「内痔核治療法研究会」の講習を受けた医師にしか、治療は認められていない。兵庫県内の医師は約二十人で、同研究会のホームページ <http://www.zinjection.net/general/list.php?var=inkai> から検索できる。